



ふじ た しょう こ
藤田 昌子さん

仲間がいるから乗り越えられる

藤田さんは2013年3月に福島県いわき市から札幌市へお子さん2人と母子避難されました。

「いわき市の自宅は原発から39kmぐらいでした。20km圏内は避難指示、30km圏内は屋内退避とされているのに、わずかの差で何も指示が出ないことにとっても不安を感じました。当時は情報も少なかったので、どの方向へ行けばいいのかもわかりませんでした。子どもたちの学校の休みに合わせて、インターネットで保養プログラムを見つけてはあちらこちらへ保養を兼ねて移住先としてはどうかも視野に入れて訪れていました。北海道もニセコや札幌など3度来ています。他には岩手県、栃木県、群馬県、埼玉県など…。当初は、こうして保養に出れば移住までする必要はないかな、とも考えていました。

原発事故から1年が経過したあたりから、私の全身にじんましんが出てしまい、皮膚科に通っているものの一向に良くなかったんです。食べ物の産地を気にしながらの買い物や、子どもたちの生活への制限など精神的に疲れを感じ始めてからのじんましん。数ヶ月続いて、本州内の保養に行ってもおさまらなかつたのですが、北海道を

訪れた時に、ぴったりおさまったのです。自宅に戻ったらまた出てしまいました…。自分の身体が北海道の空気に合うんだな、と思いました。

主人と話し合った結果、避難先での生活費は私が稼ぐことで、札幌市へ母子避難することに決めました。今まで主人に頼りっぱなしでしたので、ひとり子どもを抱えて生活できるのか主人も私も不安だらけのスタートでした。」

藤田さんは震災前に特別支援学校教諭免許の試験を受け、2011年3月10日に免許状が届いたばかりだったそうです。

「札幌に来て仕事を探し始めて、特別支援の資格があることで現在の勤務先が決まりました。いわきでも教員として共働きましたが、子育てや家事など何もかも一人でこなさねばならない状況は頭で考えていたよりもしんどかったです。あきらめていわきに帰ろうかと何度も考えました。」

様々な不安を抱えて悩む日が続いたとき、小さな頃から好きだったピアノがきっかけで心が救われたという藤田さん。

「札幌に来て1年くらい経ったころからチーム☆OKという原発避難者の自助団体の活動への参加が多くなりました。来たばかりの頃は入会はしたものの、震災から2年が経過していたこともあり、すでに出来上がっている避難者さんたちの輪の中に入る

ことができなかつたのです。勤務時間がシフトして参加しやすくなったとき、思い切って参加してみました。すぐに打ち解けることができ、みなさんとの会話がとても楽しく、癒されるのを感じました。イベントで合唱を披露することになり、ピアノ伴奏を引き受けました。札幌に来てからほとんど弾くことがなくなっていましたので、思うように指が動かなくなつたり…。引き受けたからにはと思い、夏の間は必死に練習しました。

2014年9月にいよいよ本番を迎え、イベントは大成功でした。私は伴奏を終えた途端、感極まって号泣。みなさんと心ひとつにして練習をし、やり遂げられた達成感は何とも言えない感動と自信に満ちていました。



江別市にあるレストランの的中庭で合唱を披露するチーム☆OK



リハーサルで真剣に演奏する藤田さん



カレーライス、オムレツ、サラダ、デザートまで、子どもたちだけで作りました

おそらく、このイベントがなかったら母子避難生活は挫折していたと思います。チーム☆OKでの繋がりやイベントに本当に救われたと感謝しています。

最近では、仕事から帰ると子どもたちは自分たちでご飯を用意して食べ終わっています。札幌に来てから子どもも私も精神的な面ですいぶん成長したなあと感じています。主人もひとりでこなせるようになった私を見てびっくりしています。

今では、帰れる時期が来るまでは、母子避難生活を続けようと思志が固まりました。そのためには特別支援教育士の資格をがんばって取得し、1年毎の契約でない安定した就職につきたいと思っています。

切ないこと、辛いことも当然ありますが、どうせなら札幌での生活を楽しまたいと思っています。同じことにしても気持ちの持ち方で変わりますよね。自分でも『いやあ、強くなったなあ』と感心しています(笑)」

穏やかな笑顔の中に自信が垣間見えた藤田さんでした。